

風水害編

▶ 気象情報について

台風や集中豪雨での被害が毎年発生しています。最近では、地球の温暖化などにより、局地的な大雨が降る集中豪雨が増えています。正しい情報を早めにキャッチして、すばやく対応することが重要です。

雨の降り方の強さ

- 降った雨が流れ去らず、その場所にたまった部分の水の深さを測り、ミリメートルで表すのが「雨量」です。
- 雨量は一般に1時間あたりの雨の量を発表します。

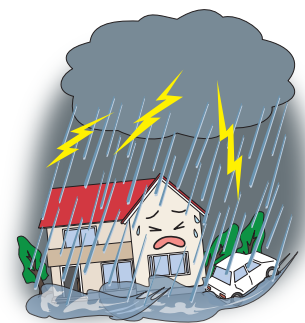
1時間雨量 (mm)					
	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内（木造住宅を想定）	雨の音で話し声が良く聞き取れない		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		

※気象庁ホームページより

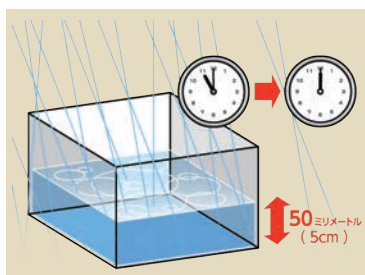
▶ 集中・ゲリラ豪雨に要注意!!

集中豪雨とは、狭い地域に対して短時間に多量の雨が降ることで、最近ではこれらの雨は、発生の予測が難しいことから「ゲリラ豪雨」とも言われています。

台風などと異なり予測が困難であり、突発的に多量の雨が降ることから、土石流・地すべり・がけ崩れなどの土砂災害、河川のはん濫などの被害がおきやすいので、十分注意しましょう。



1時間に50ミリの雨ってどんな雨？




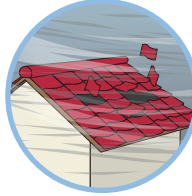
「1時間に50ミリの雨」というのは、雨水が別の場所に流れず、そのままたまる状態で、「1時間に雨水が50ミリメートルの高さまでたまる」規模の雨です。



1時間傘をさしていると、傘には牛乳パック50本分の雨が当たることになります。

風の強さと吹き方

- 1秒あたりの平均の風の速さを「風速」といっています。
- 絶えず変化しているので、ある任意の瞬間の速さをとらえて「瞬間風速」としています。

平均風速 (m/s)	 10以上15未満	 15以上20未満	 20以上25未満	 25以上30未満	 30以上
警報・注意報 (気象庁)	強風注意報 (雪の場合風雪注意報) (陸上12m/s、海上15m/s)		暴風警報 (雪の場合暴風雪警報) (陸上20m/s、海上25m/s)		
およその時速	~50km	~70km	~90km	~110km	110km~
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風
人への影響	風に向って歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向って歩けない。転倒する人もでる。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまっていけないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。		屋外での行動は極めて危険。

※気象庁ホームページより

竜巻とはこのような現象です。



この他、発達した積乱雲はダウンバーストやガストフロントと呼ばれる破壊的な強風を引き起こすことがあります。

- 竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻きです
- ろうと状や柱状の雲を伴っています
- 台風、寒冷前線、低気圧などに伴って発生します
- 短時間で狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらします
- 移動スピードが非常に速い場合があります
過去には、時速約90km (秒速25m) で移動したものもあります。

建物等の被害は防げませんが、身の安全を守るための対策は可能です！

！ 竜巻からの身の守り方

● 屋内にいる場合

- 地下室や建物の最下階に移動する
- 窓を開けない
- 窓から離れる
- カーテンを引く
- 雨戸・シャッターをしめる
- 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動する
- 部屋の隅・ドア・外壁から離れる
- 頑丈な机の下に入り、両腕で頭と首を守る

● 屋外にいる場合

- 車庫・物置・プレハブを避難場所にしない
- 橋や陸橋の下に行かない
- 近くの頑丈な建物に避難する
- 近くに頑丈な建物等がない場合は、水路やくぼみに身をふせ両腕で頭と首を守る
- 飛来物に注意する

風水害編

▶ 家庭での準備

●家の修理・補強は事前に行う

窓ガラスや外壁のひび割れ、屋根瓦のずれなどを点検し修理しておきましょう。ブロック塀・板塀、アンテナの補強、排水溝の整備などもしましょう。



●浸水対策も万全に

床上浸水のおそれがある家では、食料品・衣類・布団など生活に欠かせないものを安全な高いところへ移動させましょう。

地階・地下室のあるところは排水ポンプを設置しましょう。

低地・くぼ地では、土のう・止水板を用意しましょう。



▶ 避難時のところがけ

避難をしなければならないときは、大変危険が迫っている状態のときです。このようなときパニックに陥らないことが最も大切なことです。

町及び防災関係機関から避難勧告や指示がでたときは指示に従って迅速に行動しましょう。

日ごろから、避難場所や避難所を確認してどのような準備と行動が必要か考えておきましょう。

! 大雨などによる洪水時の避難は

- 子どもからは目を離さないように注意しましょう。洪水の際にはロープなどでつながって避難しましょう。



- 腰まで水のあるようなところは通らない。水深が50cm以上のときは無理をせず迂回するなり救助を待ちましょう。



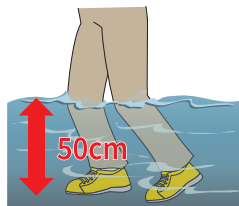
- ひもで締められる運動靴で行動し、長い棒などを杖代わりにして水面下を確認しながら歩きましょう。



- お年寄りは背負って運び、幼児には浮き袋などを用意する事もいいでしょう。



- 浸水深50cmでも流れがあれば歩けなくなります。



- 避難時は長靴ではなくスニーカーが安全です。



- 隣近所・地域の皆で声を掛け合い、避難しましょう。



- もしも逃げ遅れたら、無理に外に出ず、建物の2階以上に避難しましょう。

